

令和8年度移住・定住・交流推進支援事業

NO.	都道府県	市区町村	事業名	実施主体名	事業の趣旨又は目的	事業概要	助成額 (千円)
1	青森県	六ヶ所村	六ヶ所村移住定住促進事業	六ヶ所村	当村の人口は減少傾向が続いている。2035年における人口フレームを9,135人に設定しており、フレームを達成するためには、人口減少対策として、移住者の獲得が重要である。 本事業では、移住相談体制の整備を進めるほか、村の魅力PRを積極的に実施し、村への移住・定住者及び関係人口の増加を目的とする。	(1)事業内容(継続的推進のための仕組み、事業内容を具体的に記載) ○移住ガイドブック作成 ○ろっかしよ応援大使によるPR活動 ○各種イベントへの出展	1,200
2	岩手県	大船渡市	大船渡市移住体験住宅整備・運営事業	大船渡市	当市への移住を検討されている方や就業体験を行う学生などに、当市の風土や日常生活を体験し、移住後の生活をより具体的にイメージしてもらうため、一定期間居住する移住体験住宅を整備・運営することで、移住及び定住の促進を図る。	移住体験住宅の整備・運営 ・利便性のよい市街地にある市営住宅3室を移住体験住宅として整備(※令和6年度から民間賃貸住宅1室を移住体験住宅として整備・運営していたものを拡充する) ・寝具、家電や食器等を整備するほか、利用料を無料とし、光熱水費等は市で負担する	1,931
3	宮城県	栗原市	ブラッシュアップヴィレッジ!ぼくらのまち、はなやま	一般社団法人はなやまネットワーク	中山間地域に普遍的に存在する多様な課題への一助となるとともに、栗原市花山地区における持続可能な地域づくりに向けた取組みの一つとして展開するもの。当該事業は、これまで耕作放棄地や空き家などの「地域課題」や、自然・地域コミュニティなどの「伸びしろ」、人と地域の特技を「マッチング」、人と地域を繋げる「架け橋」と、多様なプロジェクトを実施してきた。 令和7年度に展開した「発見・体験・想像」の3段階サイクルをさらに洗練させ、人と地域のより緊密で持続的な関係構築を目指す。多世代交流の機会を拡大し、伝統的知見の継承と、地域内外の若年層による現代的視点を融合させることで、新たな地域づくりへと発展させていくものである。	1.魅力発信!発見から拡充へ”プロジェクト 花山の地域資源である「花山湖」を活用した体験型プログラムの開発と、フォトスポットの整備を行う。あわせて地域会議を通じて観光モデルコースを策定し、地域の魅力を深掘りした情報を拡充・発信することで、交流人口の拡大を図る。 2.世代伝承!交流から福祉へ”プロジェクト 伝統文化や地域活動などの体験イベントを通じて高齢者の技術と経験を若年層へ継承し、それを起点に世代間で支え合う「福祉的な相互関係」を構築する。さらに地域外の人々を巻き込む仕組みを整え、関係人口の増加と互いに支え合う地域づくりを目指す。 3.理想実現!想像から暮らしへ”プロジェクト 定住人口の増加を目指し、昨年度実施した空き家調査に基づき、利活用可能な物件の有効活用を進める。移住検討者が円滑に生活を始められるよう、空き家の片付けや暮らし体験施設の整備を行い、迅速な受け入れが可能となる体制を強化する。	2,000
4	福島県	玉川村	魅力発信!“たまファン”ステップアップ事業	玉川村	本村ではこれまで、人口減少や少子高齢化の加速に伴う労働力不足等の課題を踏まえ、「移住者は知らない地域、行ったことのない地域を移住候補地としない」という考え方により、まずは交流人口拡大のための「各種観光事業」や「さまざまな体験事業」に取り組んできた。 本事業においては、これまでの事業実績を生かし、本村と関わりを持っていた方に、応援し続けていただくため、新たな関係人口として今後設立を目指す「(仮称)たまかわファンクラブ」の会員となる「たまファン」を創出するため、将来的には移住してもらえる仕組みづくりを実施する。	(1)事業内容(継続的推進のための仕組み、事業内容を具体的に記載)「たまファン」創出事業として、途切れない利用者確保と利用満足度を高めていくため、定期的な情報発信を実施する。さらに、「たまファン」と村との深い関わりづくりを目指したファンミーティングの開催や、各種体験イベント等を実施し、ふるさと住民登録制度を視野に交流人口から関係人口へのステップアップを目指す。 ■自転車を活用した体験交流会 1回 ■移住体験モニターツアー 1回 ■ファンミーティング(2回以上) ■情報発信(SNS2ツール以上×10回) (2)事業後の展望 ・本事業に関係した地域事業者と「(仮称)たまかわファンクラブ」設立に向けたワーキンググループを開催する。 ・本事業に参加した方に対し、事業終了後も「たまかわらしサポートセンター」において、継続した情報発信の実施。 ・令和9年度中において、「たまかわファンクラブ」の設立を目指す。	2,000

5	福島県	西会津町	奥川地域における関係人口の深耕化事業	奥川地域づくり協議会	<p>奥川地区は西会津町の北部に位置し、人口減少と高齢化、若年層の流出により地域力の低下が著しく、廃村となった集落も存在するなど地域の維持管理が深刻化している。昭和29年の市町村合併時に約4,000人であった人口は、令和7年現在では499人まで減少し、地区の高齢化率は70.3%（町全体では51.3%）に達している。</p> <p>こうした状況を背景に、令和3年度、地域の有志により奥川地域づくり協議会が設立された。</p> <p>奥川地域づくり協議会では、かつてこの地にあった地域の協力体制である「結」の文化を継承すべく、「未来型“結”」として、大学生・社会人を関係人口として奥川に誘致しかつて集落全体で行っていた共同活動（水路の堰上・草刈り・田植え・稲刈り）を「人足イベント」として実施しているほか、都心部での奥川米のPRイベント「奥川お米ナイト」の開催などを通じ、都会と田舎を結ぶ拠点づくりを行っている。</p> <p>一方、協議会設立から2年が経過し、複数の大学や企業等が関心を持ち、徐々に人が集まり始めたことで、奥川をフィールドとした様々なプロジェクトが生まれつつある。</p> <p>本事業では、これまで培ってきた「未来型“結”」の取り組みを基盤に、今後の新たなステップとして、地域外の人々がより長期間の滞在が可能な環境を整備することで、関係人口との継続的な関わりを生み出す体制を強化し、奥川の地域活動を将来にわたって維持・発展させることを目的とする。</p>	<p>①「未来型“結”」の取組の継続・高度化 引き続き関係人口の創出を目的として、農村体験事業（農地の維持管理に関わる作業の手伝い、集落ごとの催事等）に参加してもらい、限界集落の課題と、人と人との結びつきが改めて重要であることを認識してもらおう。</p> <p>また、参加者には体験活動の実施前日に事前プログラム（地域課題の共有、地域資源の解説、住民との交流機会等）を設け、地域理解を深めていただくことで、単発的なイベント参加にとどまらない、継続的な関係人口の創出を図る。</p> <p>《令和8年度の予定》 4月25?26日 春の堰上入足 5月30?31日 田植え体験 6月6?7日 七観音ウォーク（ウォーキングイベント） 7月25?26日 夏の草刈り入足 8月17?18日 大聖歓喜天（集落祭事イベント） 10月3?4日 稲刈り体験 11月28?29日 秋の堰上入足 ※上記以外にも新たな農村体験事業を実施予定 これらの取組を通じて、農用地保全や祭事といった地域活動を、域内外の人材が支える仕組みとして定着させる。</p> <p>② 研修事業の実施・拡充と受入環境の整備 令和7年9月、完全通信制のZEN大学から学生6名が奥川地域の課題解決と、地域社会問題をどう捉えるか、というテーマで約1ヶ月間、奥川地区に滞在しながらの研修を実施した。学生の滞在・宿泊の拠点として協議会が管理する施設を利用したが、もともと空き家であり、長期滞在用施設として課題が挙げられた。本事業では、当該拠点施設について必要最小限の修繕・改修を行い、長期滞在・複数人利用が可能な受入環境を整備する。</p> <p>これにより、農村体験事業の受け入れはもちろん、大学生等の研修滞在拠点として地域活動への参加頻度と滞在期間の双方を高めることができ、地区との関係性をより深める。</p>	2,000
6	栃木県	鹿沼市	協働おもてなしツアーで地域とつながるプロジェクト	鹿沼市	<p>本市の移住施策において重点ターゲットに掲げる「新しいことにチャレンジする意欲・能力をもった若々しい人材」「地域住民と一緒に汗をかける人材」の獲得に向け、2地域居住者などの様々な暮らし方や働き方をする人へのアプローチを強化する。</p>	<p>地域活動の担い手となる関係人口獲得に向け、事業者や市民との協働による一連のプログラムを実施する。</p> <p>①おもてなしツアー 住民との交流を主軸に、地域活動や仕事を体験するツアーを開催する。参加者のレポートをWebやパンフレット等に活用するプログラムを実施。</p> <p>②移住交流サロン 移住者同士の情報共有、交流による不安解消、移住定住に関する意見収集を目的とし、先輩移住者との交流会や子育て相談会、空家見学会などテーマを設け実施する。ツアーと同様、写真や映像をPR素材として活用する。</p> <p>③おもてなしラッピング 市のシティプロモーションイメージ「いちご市」に基づき、市外からの玄関口である東武日光線新鹿沼駅の駅舎・構内をいちご柄にラッピングし、歓迎ムードを演出する。</p> <p>④宿泊補助 ①②の訪問時に利用可能な短期間の滞在者に対し、宿泊料の補助を行う。</p> <p>⑤市内企業と連携した広告宣伝活動、自発的な交流会への開催支援 都内での市内企業紹介や新入社員による市内企業合同交流会への支援</p>	1,945

7	群馬県	上野村	「いっばい笑おう! 上野村」移住就職プロジェクト	上野村	<p>上野村は群馬県の南西に位置し、埼玉県と長野県に隣接している可住地の少ない山間にあり、人口約990人の群馬県で最も人口の少ない過疎地域で、人口問題研究所によると2050年には589人まで減少する推計となっている。人口減少対策として移住を促進するも都市部から遠隔地に位置することから移住者は村内企業で就業する。そのため、移住希望者と村内企業のマッチングが喫緊の課題である。</p> <p>本プロジェクトは上野村内企業の採用ニーズと移住希望者ニーズのマッチングを図り、地域産業の活性化および人口減少対策を図ることを目的としている。就職説明会や家族を含めたツアーの開催、複数の村内企業が同時に採用活動を行うことで移住希望者に多様な職種の選択肢を提供することによりマッチングを促進する。加えて移住希望者および家族が安心して移住を決定できる環境を整備し、移住後のミスマッチを削減し、定住の促進を図り、地域コミュニティの持続的な発展を目指す。</p>	<p>移住希望者と村内企業のニーズのマッチングのため以下を実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①村内の企業に採用予定を確認、募集要項を作成する。 ②募集企業は採用広告を掲載する(10社程度) ③JOINや県移住フェアで移住案内と就職説明会案内 ④就職説明会にて各社社員から直接、業務の説明 ⑤マッチング確度の高い移住希望者とその家族を上野村に招待し、現地にて、就業に関する説明、村内の案内と先輩移住者との交流会開催 ⑥就職・移住までのフォローアップの実施 <p>本プロジェクトによる移住者は、翌年度以降実施する同様のプロジェクトにて、④就職説明会の説明者、または⑤先輩移住者として上野村移住体験の説明、⑥新規移住者のフォローアップにそれぞれ参加することにより、持続的な移住促進とミスマッチ解消による定住を着実に進める仕組みの核とする。</p>	2,000
8	埼玉県	横瀬町	文化×健康「歩いて健康に暮らせる町」発信事業	横瀬町	<p>秩父地域には、「秩父札所34観音霊場(以下、「秩父札所」という)」があり、西国三十三所、坂東三十三観音と共に日本百観音の札所にもなっている。</p> <p>本町はそのうちの札所5番から札所10番までの6札所を町内に有し、毎年多くの巡礼者が訪れている。</p> <p>この、秩父札所34か所が、令和8年に12年に一度、午歳に同時開帳される「総開帳」が行われる。(秩父札所34か所の本尊は、普段、秘仏として扉が閉じられているが、観音様の眷属の馬にちなみ、古来より12年に一度の午歳に扉を開くこととなっている。)</p> <p>この総開帳に合わせた札所の巡礼と、健康づくりのためのウォーキングを呼び水として、「よこぜ札所めぐり 健康チャレンジ2026」と銘打ち、事業を実施する。これにより、町内周遊へ誘導し、ウォーキングによる滞在時間と地域消費の増加を図る。また、札所巡礼を「健康づくり」という能動的な行動をとおして再認識するとともに、歴史ある遺産に触れ、町の知識と愛着を深めて、「長く住み続ける」ための精神的な基盤の強化を図る。ひいては「文化×健康」が融合した生活様式を発信することで、「歩いて健康に暮らせる町」として、将来的な移住希望者への訴求をすることを目的とする。</p>	<p>町内の札所巡礼を楽しみながら、健康を意識するためのツールとして、「よこぜ健康巡礼パスポート(仮称)」を作成し、町内の各所で配布する。このパスポートには、各札所に設置するスタンプを押印する台紙のほか、所有者個々人の歩行距離等を記録できる健康記録欄や、町で実施する健康に関する事業のスケジュール、健康に関する豆知識などの情報を記載し、所有者が健康についてセルフモニタリングをしつつ、町の情報を得ることが出来るツールとする。このパスポートにより、札所間の移動をウォーキングに変え、来訪者の滞在時間を自然に延伸させることができる。</p> <p>さらに、札所巡礼のスタンプラリーが完了した場合の報奨として、町の特産品や商品券、札所関連やウォーキングに関するグッズなどが得られる懸賞に応募できる仕組みを設ける。これにより、本事業に参加するインセンティブとするとともに、ラリー完了の達成感と商品券や町の特産品を贈ることによる、地域への貢献意識を同時に強化する。また、観光等での来訪者の場合は、消費を促すインセンティブにより、旅の満足度向上による本町への好感度の獲得と再訪を促すことにも繋がる。</p> <p>また、本事業の周知を図り、かつ参加を促進させることを目的として、事業期間中にイベントを実施する。イベントでは、健康運動指導士のガイドのもと、健康に効果的な歩き方や正しい姿勢の指導を受けながらウォーキングを行う。さらに、町の観光ガイドが同行し、各札所についての説明等も行うことで、町の魅力を深く知る契機をつくる。</p> <p>これらの各事業の実施に際しては、移住定住に係る情報発信として、パスポートの1ページやチラシ等に本町が制作した移住定住促進サイト(https://yokoze.life/)の記載を随所に行い、町に愛着を持つ人を増やしつつ、効果的に移住定住が促進されるように誘導する仕組みづくりを行う。</p>	2,000
9	新潟県	村上市	ツナガルむらかみ2026	村上市	<p>村上市外に在住する地元出身学生と、村上市と縁のある学生から「地域とツナガリを維持するための情報発信」と「地元企業と直接交流する機会」への強いニーズが確認されたことから、学生や若者(以下、「若者」)が村上市への関心を維持・深化できるよう、官民連携プロジェクト「にいがた鮭プロジェクト」で活動する学生メンバー(以下、「学生記者」)に協力をお願いし、若者の共感を呼ぶ魅力的な情報発信ツールの制作と交流イベント開催に取り組み、村上市外に在住する若者との「ツナガリ」を深め、交流会や魅力ある情報発信を通じて、移住促進や関係人口の増加を図る。</p>	<p>①若者の視点による魅力的な情報発信 村上市へのU・I・Jターンを推進するために、市内で活躍する若者と学生記者が連携して地域を巡り、村上市の「暮らし・しごと・ひと」を”人起点”で発信する。生活感や働く現場のリアリティ、そして地域の魅力を若者の視点で伝え、若者が活躍しやすい環境の発信と次世代への好循環を生み出す。さらに、学生と地域の若者のつながりを強固なネットワークとして育て、再訪や地域イベントへの参加など具体的な機会を創出し、関係人口の増加と地域の活力向上を図る。</p> <p>②多様な成果物制作 村上市の発信力を強化するため、SNS、対面イベント、動画、ウェブ、印刷物など多様なチャンネルに対応する発信ツールを制作し、継続的で効果的な情報発信体制を構築する。制作するツールは各チャンネルでの利便性と統一感を重視し、持続的な活用と改善が行えるようにする。</p> <p>③ツナガルむらかみ2026in首都圏開催 村上市の郷土料理を取り入れた交流会を首都圏で開催する。このイベントでは、Uターン経験者や企業の方と直接つながる機会を提供し、村上市の企業が魅力的な選択肢となるよう働きかけを行い、Uターンの促進を図る。また、官民連携プロジェクト「にいがた鮭プロジェクト」とタイアップし、新潟県出身の若者とのツナガリを築くことで、関係人口の増加を目指す。</p>	1,951

10	新潟県	佐渡市	佐渡で暮らす日々を体験する仕事と生活の体感プログラム—移住後の生活を具体的にイメージするために—	佐渡市複業協同組合トキコネット	<p>地方移住を検討する人の多くは、「いつかは地域で暮らしてみたい」「観光で地域に関わったことはある」といった興味・関心の段階から移住検討を始める。しかし、実際に移住先を比較・検討する段階へ進むためには、現地での仕事や暮らしの具体像を把握し、「自分に合う地域かどうか」を判断できる情報が必要となる。</p> <p>佐渡市においては、観光イベントや移住相談、お試し住宅など、移住検討後半のフェーズに対応する取り組みは一定程度整備されている一方で、情報収集フェーズにおいて、現地の暮らしや仕事を具体的に体感できる機会が不足しているという課題がある。そのため、移住に関心を持つ人が、比較・検討の候補として佐渡を選択肢に入れる前に、検討対象から外れてしまうケースが少なくない。</p> <p>本事業は、この「情報収集フェーズ」の空白を埋めることを目的として、佐渡での仕事と暮らしを現地で体験し、移住後の生活を具体的にイメージできる機会を提供するものである。単なる観光体験ではなく、地域事業者での仕事体験や、先輩移住者・地域の人々との交流を通じて、佐渡での生活リズムや働き方の実態を知ること、参加者が自分自身の視点で判断材料を得られる状態をつくる。</p> <p>本事業を通じて、移住検討者を「関心層」から「比較検討層」へと引き上げ、既存の移住相談やお試し住宅等の施策につなげる導線を強化することで、佐渡市における移住促進の土台づくりに寄与することを目的とする。</p>	2,000
11	新潟県	南魚沼市	大学と連携した未来につながる交流の場づくり事業	一般社団法人愛・南魚沼みらい塾	<p>南魚沼市では平成7年(1995年)の6万6千人をピークに人口が減少し、平成27年(2015年)には6万人を切り、10年経った令和7年(2025年)には約5万2千人と、独自推計を大きく上回る速さで人口減少が進んでいます。その一因として、南魚沼市は上越新幹線や関越自動車道が通り首都圏へのアクセスがよいため、進学や就職によって若年層が首都圏へ流出傾向にあります。この若年層の流出により、地域の担い手不足や賑わいの低下が、市内全体での近年大きな課題となっています。</p> <p>この課題に対し、南魚沼市では都市部の大学と連携した地域実習の受け入れや若年層をターゲットとしたふるさとワーキングホリデーの実施等により、大学生世代を中心とした若年層の関人口化に取り組むことで徐々に市外からの若者の来市数が増えてきている状況です。一方で中～長期滞在ができ、来市した若者が地域の人々と交流できるような滞在拠点がほとんどなく、受入事業を今後も前進させていくにあたってのネックになっています。</p> <p>そこで、本事業ではさまざまな事業等で訪れる大学生をはじめとした若年層の滞在、交流の拠点となる施設を、施設の利用者にもなる主に都市部の大学生とともにリノベーションし、今後の滞在交流拠点として整備することにより、首都圏の大学生の「第2のふるさと」となってもらえるよう取組を進め、若年層の関人口化とその後の移住に繋げることを目的とするものです。</p>	2,000
12	富山県	高岡市	歴史文化の薫り高い伝統と革新のまち高岡から繋ぎ紡ぐプロジェクト～さあ、やらんまいけ、高岡に関わる人みんなが主役です～	高岡市	<p>地元大学生及び首都圏大学生と連携した体験活動や、首都圏在住者をターゲットとして、高岡市の重層的な歴史や文化に根ざした地域密着の祭り・イベントに合わせ、クラフト工芸に囲まれた空間での暮らしや、富山湾の海の幸を寿司や保存食として味わう体験ツアーの実施を通じて、若者の移住・定住、関係人口の拡大を図る。また、これまで小さなコミュニティで高岡を発信してきた個人・団体が交流し、互いに情報交換や交流できるよう、高岡市内で当事者が集まり高岡を応援するサミットを開催する。</p>	2,000

13	石川県	小松市	小松の里山が都会の子供達の“第二の故郷”になるプロジェクト	小松市	全国でフィットネスクラブを運営している㈱ティップネスとの連携で、全国のキッズ(～15歳)に小松の里山に訪れていただき、里山滞在施設をメインに2泊3日程度の課外活動を数回実施する。田舎を知らない都会の子供に「第2の故郷」として愛着を抱いてもらうとともに、地域住民が積極的に交流を受け入れることで活性化を図る。	長期休暇に都会の子供達を小松の里山で受入(首都圏等の小学3～6年生)し、2泊3日程度の滞在で地元と交流を行う。親元を離れた子供達が主役になって、壮大な自然の中で心身を解き放って「チャレンジする行動」「乗り越える楽しさ」「自然の魅力(都会以外の暮らし)」を感じてもらおう。 ・テント設営、川遊び、カヌー体験 ・夜はキャンプファイヤー&火花自然体験+仲間づくり ・農業体験、里山暮らし体験 ・おじいちゃんおばあちゃんとの昔遊び交流 など	2,000
14	福井県	越前市	移住・定住・交流推進支援事業	エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま	地域内の空き家と農家民宿を活用し、地域外の人々との滞在型(短期・長期)ツーリズムを通じた交流体験事業を行うことにより、地域のブランディング強化と将来的な移住・定住につなげることを目的とする。	1) お試し移住及びワーケーションを行う空き家の整備及び各種届け出 2) 滞在型(2泊～3か月)のお試し移住体験やワーケーションの実施 3) 地元商店との協働によるお土産など地域の物産等を販売する売店整備 4) しらやま空き家マスターズとの協働による空き家マッチングツアーの開催 本事業では、実施主体と地域内の事業主体が連携体制を構築し、地域全体が一体となり移住・定住の促進をテーマとしたツーリズムサービスを顧客に提供する。このような仕組みは、オスピタリタ・ディファーズに類似したもので、連携による各事業主体の労力等のバランスが取られることで、地域の文化や環境に負荷の少ない持続的な事業継続につなげる。	2,000
15	福井県	永平寺町	空き家リノベーション創設プロジェクト	永平寺町	永平寺町では令和5年度から「えい住支援課」を新設し、移住定住の促進及び空き家対策について一元的に取り組んできた。その結果、社会動態は平成18年の町村合併後の5年間で計235人の減に対し、直近5年間では56人の減に留まるなど転入増・転出減の兆しが見え、空き家バンクの登録数も昨年は前年の約2倍となる25件を記録するなど一定の成果が見られる。一方で複数の大学、専門学校を有する「学生のまち」でありながら学生が地域に定着しないことが課題である。また、町内の20代人口が減少する一方、転出率は10年で3%上昇するなど、若者の流出が顕著となっている。また、町内の住宅総数に対する空き家率は増加傾向であるため、空き家利活用に対する意識の向上や空き家の予防対策が急務となっている。そこで、福井県立大学の学生による「空き家リノベ部(仮称)」を創設し、部活動として空き家のリノベーションを実施する。本活動を空き家活用のモデルケースとして提示し、所有者等に利活用を促すとともに、活動内容を公開し、空き家を中心とした学生と地域住民の交流が生まれ、学生の地域への定着につなげる。	福井県立大学、永平寺町商工会、福井コンピュータスマート㈱、永平寺町の学・産・官連携による「空き家リノベ部(仮称)」の創設。学生の手による空き家のリノベーションを行うことで、空き家の解消や未然の防止につなげ、空き家を中心とした地域住民と学生の交流の場を生み出す。 役割 ○福井県立大学 ・学生による部活動「空き家リノベ部(仮称)」を創設 活動の拠点となる空き家を学生自ら探し、交渉し、リノベーションを行う。また、試行錯誤のプロセスを地域の方にも見てもらえるようなオープンな活動とし、住民の方も気軽に関わることができる環境を整え、周辺住民を巻き込んだ持続可能な活動を行う。 今年度は創設の支援として費用面は町が負担するが、次年度以降は学生主体の活動となり、空き家所有者からリノベーション費用を徴収することなどで諸経費を賄う。 ・活動の様子をSNS等で発信 ○永平寺町商工会 ・商工会に属する建築業の職人を講師として派遣、学生に建築やDIYの技術を教える。 ○福井コンピュータスマート㈱ ・AIにより生成した空き家のリノベーションイメージを提供。 学生の設計等を支援する。 ○永平寺町 ・空き家勉強会を開催し、空き家の実態や可能性など空き家について学ぶ場を提供する。 ・リノベ部創設にかかる支援(備品等の貸与、住宅支援事業補助制度の活用、学生主体の活動としていくための体制構築支援など)	2,000
16	山梨県	北杜市	中高生から始める「地域ほくと」魅力発見プロジェクト	北杜市	北杜市は日本有数の美しい山岳景観を有し、自然豊かな環境が広がる広大な市である。首都圏からのアクセスがよく、農業や観光も盛んであり、関東圏からの移住・二拠点居住先として認知されている。しかしながら高齢化や働き手の流出により、他地域と同様に空き家の発生や商店街の空洞化、少子化等による地域力の衰退が進行しており、今後地域の継続性を維持するためにはより若い年代の活躍が必要となり、若者にとって魅力的な地域づくりが喫緊の課題となる。 市内の中高校生と共に北杜市の魅力を再発見することを目的とする。現在、市内に居住する中学校・高校に通う子どもたちの視点による地域の魅力を伝えることで、これからも地域に住みたい、地域を忘れない地域愛の醸成の取組みを行う。また、中学生・高校生を含め、都市住民との交流を通して、地域の魅力を再発見することで、将来的なリターンや関係人口による地域の担い手となるとともに、交流した都市住民に地域の魅力が伝わることで、地域への来訪、関係人口の創出や将来的な移住へ繋げる取組みを行う。	①中高校生と商店街との連携で創るロゲイニング ・学生視点による、チェックポイントの設置、イベント運営補助による、地域魅力発信や学びの場の提供が図られる。 ・開催地に商店街を含めることで、商店街と連携による活性化が図られる。 ・ロゲイニング参加者による新魅力発見や魅力発信 ②中高校生と考える交流会の開催 ・ロゲイニング参加者を含む都市住民と地域住民との交流を図る。 ・中高生が企画から参画し、ロゲイニング参加者のフォトコンテストを開催。 フォト提供者によるプレゼンによる魅力再認識と認識した魅力を共有し発信する。	1,991

17	長野県	富士見町	子育て世代移住促進事業	富士見町	<p>本事業は、長野県富士見町において「子育て世代の移住促進」を最終的な目的としています。現在、町の教育環境に関する情報はHP等に存在しますが、移住を検討している層が最終的な決断を下すために必要な「納得感のあるコンテンツ」や体験等が不足しています。そのため、行政（総務課・教育委員会）と民間事業者が連携し、田舎で子育てをすることの意義やリアルな声を届けることで、移住意向を確実に高めることを目指しています。</p>	<p>○情報発信（WEBコンテンツ制作）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門家による知見の発信：都会とは異なる「田舎で子育てをする意義」について、専門家の視点から解説する記事を制作。 ・生活環境の可視化：富士見町での子育てのリアルな現状（メリット・デメリット含む）や教育環境をまとめた、移住検討者向けの特設サイトを構築します。 ○体験の提供（教育ツアーの開催） ・季節に応じた1泊2日ツアー：2026年8月から2027年1月にかけて、季節ごとにコンテンツを変えたツアーを計3回開催します。 ・個別案内ツアーの実施：定例ツアーに参加できない層に向け、リクエストに応じた簡易的な個別日帰り案内（年2回まで）も実施します。 ・リアルな暮らしの伝達：保育園・学校等の見学、農家訪問、先輩移住者宅への訪問、地域食材を活用した夕食交流会など、観光では味わえない具体的な生活イメージを提供します。 ・参加ハードルの低減：交通費や宿泊費の負担を考慮し、ツアー参加費自体は無料（宿泊費等は実費）とすることで、参加しやすくします。 	2,000
18	長野県	須坂市	地域おこし協力隊OB団体「すぎくる」による移住定住コンシェルジュ及び空き家再生事業	すぎくる（旧：須坂市地域おこし協議会）	<p>須坂市では「信州須坂モデル」の地域おこし協力隊定着率100%という高い実績がある一方、既存の行政支援だけではカバーしきれない「生活のリアル」や「住まい（空き家）」の課題解決が求められている。</p> <p>本事業では、この定着実績を持つOB団体「すぎくる（旧：信州須坂モデル運営団体「地域おこし協議会）」が主体となり、市内OB設立法人（不動産・観光・飲食）と連携した「定住コンシェルジュ体制」を構築する。</p> <p>単なる相談業務にとどまらず、空き家再生やナリワイ創出までをワンストップで伴走支援することで、移住検討者を確実に地域へ定着させることを目的とする。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 移住定住コンシェルジュ窓口の設置（市街地） 中心市街地の空き店舗に拠点を開設し、OBが常駐する相談窓口を運営する。行政窓口では対応しにくい生活相談や、地域キーマンとのマッチングを行い、移住者の孤立を防ぐハブとなる。 2. 空き家再生DIYワークショップ（郊外） 郊外の「わけあり物件」を教材に、連携団体（（一社）すぎかランドバンク等）の指導下で、移住検討者と住民が協働して改修を行う。不便さを共有体験に変え、入居前からコミュニティを形成する。 3. オーダーメイド視察とナリワイ体験 画一的なツアーではなく、個々の希望（就農、起業等）に合わせて、OB事業所（Minenohara Crafts、（株）須坂の暮らし等）を巡る視察を実施。「地方で稼ぐ姿」を具体的に見せる。 4. Webプラットフォーム構築 既存サイトを改修し、相談予約、空き家バンク連携、OBスキルマップ等の機能を実装し、関係人口との接点を強化する。 	2,000
19	岐阜県	中津川市	加子母”木と暮らしの循環”交流促進事業 一空き家活用と学びの宿による移住・交流モデルの構築一	特定非営利活動法人 かしもむら	<p>空き家をゲストハウス兼「加子母Lab」として整備することで、交流・滞在・学びの拠点を地域内に確保することを目的とする。「加子母Lab」の整備にあたっては、空き家解体等で発生する古材をアップサイクルの視点で活用するとともに、製材業から発生する木皮など、これまで十分に活用されてこなかった林業・木材産業の副産物や未利用資源にも着目し、地域内資源の循環を意識した整備を行う。あわせて、当該拠点を活用した滞在型の学びや交流プログラムを実践することで、都市圏住民や学生等との交流を促進し、関係人口の創出および将来的な移住・定住につなげることを目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲストハウス「加子母Lab」の改修・整備 ・「加子母Lab」を拠点にした体験・滞在プログラムの実践 	2,000

20	岐阜県	御嵩町	みたけ未来ファミリー滞在学習事業～住むように学び、学ぶように地域とつながる7日間～	みたけ未来ファミリー滞在学習事業実行委員会	<p>事業の趣旨 御嵩町は豊かな自然と宿場町としての歴史・文化を有する一方、若年層の町外流出と少子高齢化が進行し、将来的な担い手不足が深刻化している。こうした課題に対しては、観光等の一過性の交流に留まらず、「人と人との関係性」を基盤とした継続的な交流人口・関係人口の創出が不可欠である。本事業は、都市部在住の中学生が御嵩町に7日間滞在し、地域の仕事や暮らし、人々の関わりを通じて「地域の一員として受け入れられる経験」を得ることにより、地域との心理的・人的なつながりを持つ関係人口を創出することを狙う。その際、「何をするか」よりも「誰に出会うか」を軸に据え、参加者を“お客様”にしない受入れ設計と、地域住民が「教える側」に固定されず「共に学ぶ側」として関わる双方向性を重視する。</p> <p>事業の目的 本事業の主目的は、都市部に暮らす中学生が御嵩町に7日間滞在し、地域の大人や同世代の子どもたちと生活を共にすることで地域との心理的距離を縮め、将来にわたって関係性が続く「関係人口」を創出することである。あわせて、参加者が地域の一員として主体的に活動に関わる経験を通じて、①地域への愛着を醸成し、②再訪意欲を高め、③将来的な移住・定住への関心を喚起することを目指す。また、地域側にとっても、外部人材との交流を通じた新たな学びや地域への誇りの再認識につなげ、継続的な関係構築の土台を強化する。</p>	<p>本事業は、都市部在住の中学生（678名程度）を対象に、夏休み期間中に御嵩町内で7日間実施する滞在型プログラムである。特色は、特定の体験メニュー（What）よりも「誰に出会うか（Who）」を軸に設計し、参加者を“お客様”ではなく地域の一員として迎え、地域の仕事・暮らし・人との関わりを主体的に経験させる点にある。また受入側も一方的に教えるのではなく、参加者と「共に学ぶ側」として関わる双方向性を重視する。</p> <p>滞在中は「働く・出会う・体感する・住む」の4要素を一体的に体験し、地域の大人との対話・仕事体験、自然・文化を活かした活動、同世代との交流を組み合わせ、最終日に振り返りと発表（地域住民・家族向け）を行う。実施主体は「みたけ未来ファミリー滞在学習事業実行委員会」とし、御嵩町、御嵩町観光協会、地域事業者、全国地域リーダー養成塾修了生、町民有志等の多様な構成で運営する。さらに、専門的な講師・コーディネーター、現地運営統括、運行・安全管理等を配置し、未成年対象事業としての安全性と教育的価値を両立させる。</p> <p>継続的推進のための仕組みとして、実行委員会内で「人材配置」と「役割設計」を明確化し（プログラム／受入れ生活運用／安全管理／広報募集等）、運営ノウハウを手順化して次年度へ引き継ぐ。事業は単年度で完結させず、実施を通じて得られたノウハウや人材配置の仕組みを活用して参加者との関係を維持・発展させ、再訪、長期滞在、移住検討へとつながる持続的な関係人口の創出を目指す。</p>	2,000
21	静岡県	川根本町	令和8年度 川根本町×Creema 移住・定住・交流推進プロジェクト	川根本町	<p>全国約28万人のクラフト作家等（以下「クリエイター」という。）が作品を出品するECサイト「Creema」の運営法人である株式会社クリーマとの連携により、全国からクリエイターを集めたマルシェイベント等を開催し、町内外からの誘客を促すことで、交流人口の拡大を図る。</p> <p>また、マルシェの開催に合わせて、マルシェに参加したクリエイターと町内事業者などとのマッチング機会を創出することで、新たなビジネスモデルや新商品の開発、町内の既存商品のブラッシュアップなどに繋げ、クリエイターを当町の関係人口の一員に取り込むことをねらう。</p>	<p>ア 内容 マルシェ：第2回 山との暮らし、みどりのクラフトマルシェ 【参考資料】第1回チラシ（別添） マッチングイベント：クリエイターと町内事業者の情報交換・交流の場を創出する。</p> <p>イ 日時 令和8年10～11月の土・日曜日、祝日</p> <p>ウ 会場 マルシェ：空き校舎の活用を予定 マッチングイベント：町有施設又は町内飲食店を予定</p> <p>エ 対象者及び定員 マルシェ：Creema登録クリエイター 30組程度 地元事業者0組程度 マッチングイベント：マルシェ参加クリエイター及びクリエイターとのマッチングを希望する町内事業者など最大30人程度</p> <p>オ 事業実施に係る役割 川根本町：・マルシェの告知（町内及び県内他市町） ・マッチングイベントの企画及び運営 ・町内事業者との各種調整 株式会社クリーマ：・マルシェイベントの企画・運営・告知（県外） ・マッチングイベント参加クリエイターの募集 ・クリエイターとの各種調整</p> <p>カ 令和7年度からの変更点 令和7年度は、クリエイターの移住を促すための直接的なアプローチである「移住体験ツアー」を実施したが、参加者は初めて川根本町を訪れた方ばかりで、いきなり“移住”というのはハードルが高いとの意見をいただいた。その反省を活かし、令和8年度は、移住を検討するきっかけにもなり得る“関係人口”の一員へのクリエイターの取り込みを目的とした内容に変更している。</p> <p>キ その他 事業の継続実施を見据え、終了後は参加者、関係者、マルシェ来場者のそれぞれにアンケートをとることで、課題・改善点の洗い出しを行い、次回実施時にはそれらを反映させることで内容のブラッシュアップを図る。また、併せて必要経費などの見直しや、マルシェにおいては、出店料の妥当性についても検討を進めることで、持続可能なスタイルの確立を図る。</p>	2,000

25	兵庫県 三田市	三田市	ほんとうの移住・定住をかなえる三田ライブデザインプロジェクト?地域×事業者×行政で共創する「あなたの暮らし」?	三田市は、ニュータウンの利便性、旧市街地の歴史的な暮らし、里山地域の自然と共生する暮らしなど、多様なライフスタイルを選択できる都市である。この多様性は、移住希望者が自分に最も合った暮らし方を見つけれられる可能性がある一方、十分に情報が整理されなければ、移住希望者に見つけてもらいにくいという課題も生じている。 本事業は、行政・民間企業・地域が三位一体となり、移住希望者の価値観や生活イメージを丁寧に把握し、移住体験の提供から生活基盤形成、移住後の定着まで、一連の流れを伴走する移住支援モデルを構築することを趣旨とする。 民間企業は、オーダーメイドさんだツアーやお試し移住を通じて希望者の“理想の暮らし像”を引き出し、地域コーディネーター育成と地域との協働により、地域の受入力を高める。行政は、上位行政との連携やSNSを活用した効果的な発信により人口支援を担い、多様な暮らしを選べる三田の価値をわかりやすく提示する。 これらの取組を通じ、移住希望者が“自分らしく生きられる場所”を選び取れる支援を確立し、ほんとうの移住・定住につなげる。	①オーダーメイドさんだツアーの運営 委託料2,000千円 ②需用費(消耗品費) 105千円 ③需用費(印刷製本費) 400千円 ④備品購入費 100千円 合計:①+②+③+④=2,605千円	1,205
26	奈良県 生駒市	生駒市	SNS発信力強化プロジェクト～市民と協働した持続可能な発信を目指して～	SNSを核とした魅力発信により、市内の方には「住み続けたい」、市外の方には「生駒市を訪れたい」「生駒市に住んでみたい」という興味・関心につなげ、移住定住者の獲得を目指す。そのため、市職員及び市民PRチーム「いこまち宣伝部」のSNS発信力の基盤強化とデータに基づいたSNSの運用を図り、運用マニュアルを策定し、持続可能な運用体制を構築する。	①SNS運用に関する戦略設計・分析・マニュアル策定 ②SNS研修会・個別相談会の開催 ③デジタル一眼カメラの貸与	1,994
27	和歌山県 紀美野町	紀美野町	きみのは続くよどこまでも推進事業	本事業は、紀美野町に残る「伝統・文化・空き家・農地・地域の知恵」を、移住者・地域住民・関係人口と共に次世代へ継承し「未来へ続く」ための基盤づくり事業である。 空き家や農地の管理、文化継承の停滞、人口減少の進行といった地域課題に対し、これまでの移住定住支援の実績を活かしながら、住民主体の話し合い支援と文化継承型ワークショップを組み合わせ、地域の持続的な暮らしを次世代につなぐことを目的とする。 NPO法人きみの定住を支援する会は、2006年の設立以来、県内でも先駆けて移住定住施策に取り組んできた。移住者交流会の開催、和歌山大学との連携による各地区説明会、三年ごとの空き家調査など、19年以上にわたり地域の受け入れ態勢づくりを進めてきた。 しかし近年、 ?空き家の老朽化と増加 ?耕作放棄地の拡大 ?人口約3,800人の減少 ?新型コロナ・高齢化等による行事の消失と文化継承の停滞 といった状況が顕著である。 また、移住希望者は増えているにもかかわらず、紹介可能な空き家が極めて不足している。これは、家や土地について家族間で話し合う機会が十分に確保されていないことが主因であり、耕作放棄地・空き家予備軍を生み出す要因となっている。	① 未来に続く「きみの未来ノート」の作成・活用 目的:空き家・農地の増加を未然に防ぎ、家族間での意思共有を促す仕組みづくり 町内では空き家情報が不足しており、移住希望者へのマッチングに支障をきたしている。そこで住民自身が「家・農地・山林をどう次世代へ引き継ぐか」を考えるための書き込み式ノート「きみの未来ノート」を作成する(冊子版+ウェブ版)。 ノートは、 ?不動産情報(地籍・権利関係) ?金融情報(保険・預金・借入) ?デジタル資産(ID・パスワード) ?親族関係・地域との付き合い など、生活に関わる情報を家族と共有できる構成とする。さらに和歌山大学と連携し、ノートを活用した地域説明会を開催することで、住民が家族間の対話を実際に行えるよう支援する。これにより、空き家情報提供の増加、農地の承継促進、地域の将来像を家族で考える土壌が形成される。 ② 伝統的な「味」と「香り」継承事業 目的:地域文化・農産物・知恵を移住者と共につなぐ体験型プログラムの創出 活動拠点(生活体験施設付帯施設)を改修し、食と農を学べる交流拠点とする。 これにて紀美野町に伝わる伝統文化を「体験型」で継承する。 <実施内容> ?伝統料理の継承 ・焼きサバ、味噌、金山寺味噌、100年続く大豆を使った豆腐、平安期から残る塩納豆、鯖寿司など ?保存加工品づくり ・乾物、番茶、干し柿、串柿(柿の活用マニュアル作成) ?伝統果樹の保全 ・特に町内の渋柿の分布調査(ホンデガキ、黒ホンデガキ等) ?獣害対策講習 ・農地保全に不可欠な基礎知識を提供 ?もちまきの復活 ・地域住民・移住者・学生・移住希望者の交流として位置づける これらを通じ、地域住民と移住者が共に手を動かしながら文化・農を学ぶ機会を生み、都市住民との交流拠点として関係人口の増加を目指す。	2,000
28	島根県 海士町	海士町	海士町文化観光推進事業	海士町教育委員会	神楽体験と地域住民との交流を通じて関係性の深化を図り、ふるさと納税につなげることで、集まった寄付を神楽の保存と活用に再投資する好循環を生み出し、継続的な推進を図る。 事業内容としては、交流人口を対象として、集客のための情報発信を行い、地域に根差した祈禱神楽(隠岐島前神楽)を中心とした体験イベントを実施し、地域住民に混ざって交流することで、関係性の深化を図る事業。	2,000

29	島根県	江津市	江津市の未来に会いに行くツアー事業	山陰ギフト	観光産業の推進は、本市の総合戦略において重点プロジェクトに挙げられます。特に、有福温泉においては、その活性化の推進が重点プロジェクトで取組の方向性として示されています。 その有福温泉では、近年若い人が活躍し始めています。有福温泉やその周辺地域の魅力をツアーやお土産を通して感じてもらい、有福温泉および江津市のファンづくりを行います。 江津市、有福温泉で既に移住し活躍している人材との接点を創出することで、参加者が地域での暮らしを具体的に想像し、将来的な二拠点居住・移住検討へと進む入り口をつくることを目的とします。	・首都圏でのPR、集客 ・有福温泉および江津市で活躍する将来性のある面白い人・モノに会いに行くツアーの実施 ・お土産の開発	2,000
30	岡山県	新見市	移住×関係人口拡大プロジェクト	新見市	移住相談イベントや観光物産イベント等において、本市へ興味を持っていた方に、「ふるさと市民」への登録を促し、関係人口の拡大を図っていく。さらに、ふるさと市民限定の市内観光・体験ツアーの「にーみーとツアー」を実施し、本市に興味がある層に対して、体験等を通じて本市への理解を深めてもらい、将来的に移住につながるようアプローチを図る。また、お試して本市に宿泊いただくことで、移住につながる環境を整える。	①移住相談会・イベント出展事業 都市圏、関西圏で開催される移住に関する相談会や集客のあるイベントやフェアに出展し、関係人口拡大に向け「ふるさと市民」の周知を行う ②ふるさと市民登録事業 イベント等で、本市に興味を持っていた方に対して、ふるさと市民への登録を依頼し、登録いただいた方には、市民証を発行し、様々な情報発信を行う ③にーみーとツアー ふるさと市民を対象に、市内の観光や体験をしていただくツアーを実施する ④お試し暮らし事業 本市に移住を考える方に、市内の指定施設に宿泊いただき、本市を体験いただく事業で、宿泊費の一部を補助する	2,000
31	広島県	北広島町	部活動型町民PRチーム「きたひろる宣伝部」育成事業	北広島町(まちづくり推進課)	1 趣旨 北広島町は自然・食・水といった豊かな自然の恵みや昔ながらの生活の知恵、多様なスキルを持った人など、移住者にとって他で得がたい暮らしの資源があるはずである。しかしながら、それらを言語・ビジュアル化し、魅力を町内外に伝える仕組みが不足している。 そこで、行政・学生・メディアなど、世代や生活の場を超えた人が協働して、住民を主役とする「ひと・こと・ところ」を取材・発信する部活動型プロモーションチームを立ち上げ、住民目線の地域ナラティブによる魅力発信により、ファンや移住者を増やすまちの魅力の可視化及びプロモーション人材育成の事業に取り組む。 2 目的 ? シティプロモーションの推進 北広島町の「ひと・こと・ところ」を住民目線で発信し、「生活の場」としての北広島町の認知を拡大し、「きたひろる暮らし」を具体的に想起させ、移住意欲を喚起すること ? シビックプライドの醸成 住民自らが、取材や宣伝部員間のつながりを通じて、まちの魅力を再発見し、地域への愛着を深めること ? 協働のまちづくりの実践 多様なステークホルダーの連携により、移住促進や関係人口の獲得につながる観光誘客などの分野において、協働のまちづくりを促進すること ? プロモーション人材の育成 取材・発信スキルを備えたプロモーション人材を育成し、継続的な情報発信基盤を構築すること	(1)事業内容(継続的推進のための仕組み、事業内容を具体的に記載) 「きたひろる宣伝部員」(任期1年/再任可)を公募する。ライティングや写真撮影、SNS運用の基本を学ぶ研修講座を提供し、北広島町の運用するSNSや移住ガイドブックなどへの記事執筆を依頼する。提供のあった記事については、まちづくり推進課での投稿後、地元タウン誌のプロ編集者や「きたひろる宣伝部マネージャー」(高校生・大学生)による月例レビューを行い、宣伝部員のモチベーション及びスキルの向上を図る。 情報発信を行う媒体及びターゲティングについては、別紙の企画書のとおり。	2,000
32	高知県	高知市	「土佐の街路市」曜日市 150周年を契機とした交流人口拡大事業	高知市	令和8年度は、「定日市」から「曜日市」に変更されてから150年を迎えることから、土佐の街路市の歴史を振り返り、魅力を広くPRするとともに、出店者と街路市利用者、地元学生等の交流人口の拡大、将来的には本市への移住・定住を促進することにより、歴史ある街路市を未来へつなぐことを目的とする。	①街路市の歴史・魅力発信 街路市を広くPRするために、ロゴマーク公募の実施や、150周年について、県内外に幅広い広報活動などに取り組む。 ②食などの商品を活かした取組 出店者や地元学生などの協力により、「街路市の食」をテーマにしたシンポジウムや、街路市の食材を使った周辺飲食店とのコラボメニュー企画を実施。	2,000

33	福岡県	うきは市	うきは市二地域居住	うきは市	コロナ禍以降、テレワークやワーケーション、二地域居住への関心が全国的に高まり、完全移住ではなく、段階的な関わり方が現実的な移住・定住の入口となっている。うきは市では、都市圏在住者で二地域居住に関心が高い方を対象として、本市において二地域居住生活を行い、うきは市の魅力を認識いただき、滞在期間中にそれぞれの状況に応じた移住・定住に向けての支援を行うとともに、将来的なU/I/Jターンの拡大を目指す。また、本市への移住検討者等を対象とした交流体験イベントやセミナーを行い、本市の魅力を発信すると共に、関係人口の創出を図る。併せて、県外での移住相談イベントで本市のPRを行う。	二地域居住生活の希望者を公募し、応募動機等を基にうきは市での二地域居住生活対象者の決定を行う。将来的にU/I/Jターンを検討し、その場所の選択肢の一つをうきは市としている者に対して、羽田=福岡の特典航空券相当のマイル最大4往復分を補助し、二地域居住推進事業に参加してもらう。その他の地上交通費、現地滞在費(宿泊費等)は参加者各自に負担いただく設定とする。それにより、自己負担も発生する中で、本気で将来的な二地域居住を検討している者を見極め、参加者の状況に応じ、将来的な定住に向けての支援を行う。	2,000
34	福岡県	行橋市	「ゆくはし LIFE」発信	福岡県行橋市	子育て世代をターゲットとし、本市紹介動画作成や、プロモーションイベントへの参加、さらに本市最寄りの北九州空港内で通年でのPRを行うことで、本市の魅力を市内外に広くPRし、子世代・孫世代まで見据えた長期的な移住・定住を推進することを目的とする。	①行橋市シティプロモーション動画制作 ドローンを利用し、広く本市の魅力が伝わる動画を製作する。 製作した動画はプロモーションイベントや、各種SNSで公開予定であり、長期的に広く見ていただけるよう活用する。 ②行橋市シティプロモーションイベント開催・参加 子育て世代をターゲットとし、本市ご当地キャラクター「こもちゃん」帯同でのシティプロモーションイベントを首都圏で開催・参加する。	2,000
35	佐賀県	有田町	伝統産業「有田焼」の	一般社団法人clay	「有田焼」の歴史と技術を脈々と継承してきた有田町の窯元や窯業関係事業者も、後継者不足の課題に直面しています。佐賀県外に住む有田焼に関心のある学生や転職希望者、二拠点居住を考えている人などが有田へ移住して働くことへのハードルを下げ、挑戦しやすい環境をつくることを目指します。	(1)事業内容(継続的推進のための仕組み、事業内容を具体的に記載) 有田焼産業界の新たな担い手づくりのために以下の活動に取り組みます。 ・HPやSNSなどを通して佐賀県外の方へ周知、集客 ・外からの人材を呼び込み、事業者とのマッチング ・1~3か月程度のインターン受け入れ ・"新たな担い手"と事業者の双方との面談を行い、課題や不安の解消をサポート	1,268
36	長崎県	東彼杵町	東彼杵「茶畑の森」に	東彼杵町観光協会	東彼杵町の赤木集団茶園内に残された未利用の森を舞台に、環境芸術・アート視点から「茶畑の森(仮称)」としての可能性を実証的に探る事業である。地域や農家との合意形成が図られた立地を活かし、完成された施設整備ではなく、人が関わり滞在する過程そのものを実験的に構築する。体験・移住検討者や関係人口が地域の暮らしを具体的に想像できる場を創出するとともに、住民が自らの風景や土地の価値を再認識する契機とし、移住・定住・交流につながる新たな地域交流モデルを目指す。	「茶畑の森(仮称)」を起点に、既存の道や生活動線を活かした散策ルートを設定し、自然・生業・暮らしの風景を連続的に体験できる場を構築する。空き地や民有地の一部を活用し、期間限定かつ可逆性を重視したインスタレーションを設置することで、将来的な土地利用の可能性を残す。あわせて、住民や外部人材との協働による制作プロセスや体験プログラムを通じて交流を促進し、情報発信を行うことで、関係人口の創出と地域理解の深化を図る。	2,000
37	鹿児島県	奄美市	集落ライフガイド(集落	鹿児島県奄美市	鹿児島県奄美市笠利町は、奄美空港に近接し、美しい海岸線や集落景観を有することから、本土を中心に移住希望者が多い地域である。一方で、移住後に地域の慣習や暗黙のルールが分からず、地域に馴染めないまま転出してしまふケースも少なくない。 その主な要因として、「集落ごとに異なる生活ルールや慣習が可視化されていないこと」「移住希望者が事前に地域の実情を知る手段が限られていること」「市担当者や集落側も、移住者へ十分に説明できる共通資料を持っていないこと」が挙げられる。 本事業では、笠利町内29集落それぞれの生活ルール、行事、集落運営の仕組み、生活上の留意点等を整理した「集落ライフガイド(ルール&MAP)」を作成する。これにより、移住希望者の不安解消とミスマッチの防止を図るとともに、集落側にとっても受け入れルールを明文化することで、円滑な受け入れ体制を構築する。 また、本ガイドを移住相談時や転入手続き時に活用することで、交流人口・関係人口の段階から地域理解を深め、定住につながる持続的な移住促進の仕組みを構築することを目的とする。	笠利町内29集落を対象に、各集落の特性を反映した「集落ライフガイド(A3・4ページ・二つ折り)」を作成する。 作成にあたっては、既存の行政資料に加え、移住者座談会を開催し、移住後に困った点や事前には知れなかった情報を収集する。また、各集落の区長、婦人会長、老人会長等への聞き取りを行い、集落運営体制、年間行事、共同作業、寄付金、生活上の注意点、集落内の重要な場所等、実際の暮らしに即した情報を整理する。 ガイドはCanvaを用いて統一テンプレートを作成し、将来的な情報更新を市職員が自ら行える仕様とすることで、助成終了後も継続的に活用・改訂が可能な仕組みとする。	2,000
38	鹿児島県	南種子町	南種子町移住・定住	南種子町定住促進実	地域の活性化、町への移住・定住促進につながる意識の励起・呼びかけや、	・随時オンライン、オフライン問わず個別相談会を実施。 ・移住希望者の方に来島いただき、実際の移住体験をしていただく「移住体験サポート事業」の実施(2泊3日の宿泊費、レンタカー代の補助) ・移住者を対象とした、定住サポートとなる意見交換の場の企画立案及びイベントの実施	1,248

39	鹿児島県	南九州市	ポジティブお節介プロ	Chiran Osekkai Ef	<p>近年、都心だけでなく地方においても人との関係性が希薄になりつつあります。田舎特有の「お節介」という地域の自治の形式(優しさの形)も同様の現象です。これにより、人と人が繋がりが支え合うことで成り立っていた地方での関係性構築にも大きな影響が出ていると言えます。</p> <p>本事業では、「ポジティブなお節介」による支援を通じて、交流人口から関係人口、さらには移住・定住へと繋がる仕組みを構築します。この仕組みによって、都市住民と地域住民との接点や交点を増やし、関係性を深めることを目的としています。</p>	<p>本事業は、以下の3段階(A・B・C)に分けて段階的に関係性を深めるとともに、参加者が次の運営や支援の担い手となる循環を生み出すことを目指します。</p> <p>A.【入口】挑戦を後押しするPOPUPの開催(隔月) 対象:交流人口から関係人口へ 本事業では、2か月に1回、市内の拠点を「挑戦の場」として開放します。観光客ではなく、自身の表現(出店・展示)を通じて地域に関わる「プレイヤー」としての第一歩を踏み出すことを支援します。 【継続の仕組み】 過去の出店者がアルムナイ(卒業生)として、新規出店者の紹介や広報を担うリクルート体制を構築し、継続的な事業推進を図ります。</p> <p>B.【深化】お節介による交流の場づくり(開催時) 対象:関係人口から移住人口へ POPUP開催時、運営スタッフや地域住民が仲介役となり、出店者と来場者を積極的にマッチングします。この過程を通じて、「顔なじみ」を増やし、移住への心理的ハードルを下げることを目的とします。 【継続の仕組み】 地域のキーマンを「お節介サポーター」としてリスト化・組織化し、属人性を排除した安定的なマッチング体制を整備します。</p> <p>C.【定着】日常を共有するマンスリー事業(毎月) 対象:移住人口から定住人口へ ヨガや語り場など、日常的な活動を共有する定期的な会を開催します。悩み相談や相互扶助が自然に生まれる「家族のような関係性」を育むことを目指します。 【継続の仕組み】 参加者が次に「先生役(スキル提供)」や「運営補助」に回る役割を創出し、住民主体で自走するコミュニティへと発展させます。</p>	2,000
----	------	------	------------	-------------------	---	--	-------